

民主化闘争情報

811

2011年2月3日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

2月1日、衆議院予算委員会において自民党の柴山昌彦議員が質問に立ち、JR総連への革マル派浸透問題に関して政府の見解を問い質した。

衆議院予算委員会でJR総連への革マル浸透問題を追及！ 枝野官房長官がJR総連・東労組に絶縁宣言！

JR総連への革マル派浸透問題が、NHKテレビで全国に生中継される衆議院予算委員会で質疑されるのは、昨年以降今回で三回目となる。今回の柴山議員の質問は、従来にも増して踏み込んだ内容となっており、対する答弁も注目すべきものであった。質疑の概要は以下のとおりである。

(柴山議員)この質問主意書(2010年4月27日佐藤勉衆議院議員提出)は、JRの労働組合に、日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派、すなわち革マル派が影響力を持っているか、ということについてのものである。(答弁書には)このように書かれている。革マル派は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、これまでも殺人事件等、多数の刑事事件を惹き起こしている。革マル派は、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して、基幹産業の労働組合等、各界各層への浸透を図っており、JR総連及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している。今後も革マル派は、組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる。

これは、枝野長官の政治団体が、平成8年以降今の答弁書にあったJR総連及びJR東労組からいくら献金を受け取ってきたかを示すものである。一昨年の衆議院選挙の年まで、継続的に合計794万円にのぼるお金を貰っていたことになる。枝野長官、あなたが閣議決定に署名した答弁書で問題が指摘されたJR総連・JR東労組からこれだけの献金を受け取ることは道義的に問題があると思われないか。また、今後も献金を受け取るつもりがあるのか。

(枝野官房長官)私は連合加盟の各産別といろいろな意味でお付き合いをさせていただいており、その連合加盟の各産別とお付き合いをする範囲内で当該労働組合ともお付き合いをさせていただいてきたが、それ以上でもそれ以下でもない。今後については、「季下に冠を正さず」ということもあり、献金等のお申し出があってもお断りさせていただこうと思う。

(柴山議員)これは、枝野長官が平成8年の2期目の総選挙の際、仮にY氏とするが、JR東労組大宮支部の委員長と取り交わした覚書である。このY氏は、この頃、JR革マル派のリーダー的地位にあるLC会議のメンバーであり、職場から集めた革マル派のカンパを上納する財政担当であった。さらに、このY氏は、平成14年、方針に従わなかった組合の同僚を脅して、脱退を強要したという、いわゆる浦和電車区事件で、他の幹部とともに逮捕され、東京高裁で有罪判決が出ている。

(枝野長官)一般的な政策協定として、連合加盟の産別、組合との間で結んだもので、たまたま、当該、その時のその立場におられた方が、どういう立場であったのかということは、少なくともその時点では存じ上げていない。

質疑では、上記以外にもJR総連出身の田城郁参議院議員と業務上横領事件との関係が質問され、答弁に立った菅総理は「社会的に問題が極めてある団体との関係というのは、当然ながら、そこは、気をつけなければならないと思っている」と明言した。

いずれにしても、枝野官房長官がJR総連・東労組からの政治献金を拒否することを明言したことの持つ意味は大きい。この問題は枝野長官のみならず、JR総連から献金を受けているすべての国会議員にも波及するのは必至である。この質問を契機に、JR総連への革マル派浸透問題の追及がさらに加速することは確実だ。

菅総理も答弁した「社会的に極めて問題がある団体」とは、JR総連であることに間違いはない。もはやJR総連には「孤立の道」しか残されていないのだ。！